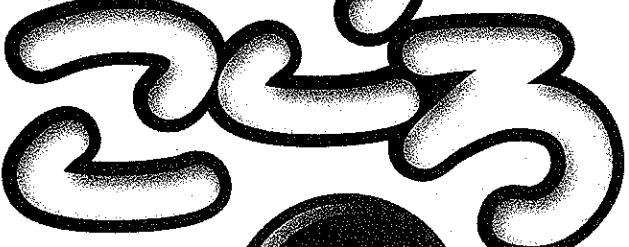


# はなぐる



人権の宝島 萱野小発	1
校内LANがやってくる	4
シンポジウム記録	5
おいしいにおい かわのひでただ	9
ゆうからきいて！(トッキの会)	11
学校のホームページ紹介	13
人権教育基本方針解説	14
げんげののべえじ	15



みのおから世界へ！ 人権文化の花束を！

# つながる 子どもたち 萱野小学校

まちづくりへの思いを具体化してきておられます。わたしたちも、たくさんの人と協働する地域の姿から多くを学び、子どもたちの学び方に生かすことに努めてきました。地域や保護者の参画を得て生まれた新たな教育のネットワークが、教育内容をより豊かにしていく可能性を実感しています。

「自分がすき、友だちがすき、学校がすき」…そして、そこに住む人を好きになり、「自分のまち」を好きになってほしいという願いをこめて…。昨年度の各学年の学習から、少しづつ紹介したいと思います。

## ●4年生／『ブックトークを楽しもう』

一人ひとりの読む力をのばしたい。友だちとやりとりを核にして、考えを深めさせたい…。司書はもちろん、地域のたんぽぽ文庫の方たちにサポートしていただいた活動です。1学期は、「群読」を2学期には、「ブックトーク」を中心とした学習を行いました。表現したい、伝えたいという思いが高まっていきました。

♪らいとびあま  
つりで群詩発表。  
練習の成果はば  
っかりです。

者と協働で

## ●6年生／『萱野地球村！チベットに学校を！』

「飛び出せ！地球村探偵団」「プロジェクト～未来へ」と活動をつないできた6年生。いろいろな人たちとの出会いを楽しみ、その出会いや参加型学習などから、現実の社会にある課題を知り、その解決にむけて、自分のよさを生かしながら具体的に役立つ行動を創りだしていました。協働の活動は、地域に新たなネットワークを生みだし、子どもたちの成長を応援していました。

♪グリーンホールでのパイメーヤンジンさんとのジョイントコンサート。つながった人たちがたくさんきてくださいました。



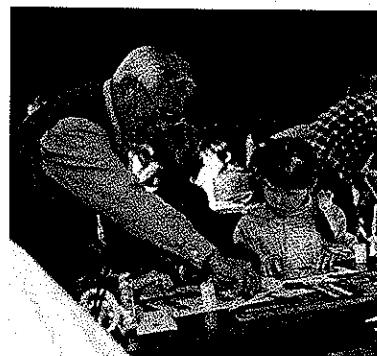
## ●5年生／『ひとまちく箕面新都心』

保護者とともに行った新都心予定地のフィールドワークや聞き取りなどを通し、「こんな活動をして新都心をよりよくしたい」というアイデアに「自分の興味や得意」を重ね、「しらべようPJ」「つくろうPJ」「つたえようPJ」が発足。それぞれの思いを形にする活動を行いました。地域や保護者、なかまととのつながりから生まれる力を知りました。

♪わたしたちのまちへの思いを市長さんに提言。NPO活動は箕面市でもやっています。いろいろな人にお話を聞いたり、調べたりしていくうちに、私も知らないうちにNPOをしていることがわかつきました。私たちの活動に関わってくれた人がいたからここまで調べていくことができたと思います。」

## ●かやのキッズ／すこやかネット

12回目となるこの行事。青少年を守る会や民生委員・児童委員、地区福祉会、こども会、そしてPTAの方たち等のつながりが、確かな地域の教育コミュニティを生み出しています。



### ●1年生／『わくわく読書』

授業づくりワークショップでは、保護者の方々から、子どもが家で本を手にするようすや、自分が好きだった本のこと、読んであげたい本のことなどが話されました。そこから生まれたのが、保護者による少人数での読み語り「わくわく読書」です。回を重ねるごとに、本に興味が薄かった子も自分から本を手にするようになるなど、毎日の読書のようすを少しづつ教えてきました。



♪「子どもたちが静かにきいてくれるので、うれしいです。次が楽しみです。」  
(保護者より)

自分がすぎ

友だち

## もとめる・伝えあう・

箕面市立

萱野小学校では、「自分を出発点に、よりよい社会づくりに参加する子どもたち」を育てることをめざし、教科学習や総合学習にとりくんでいます。「人権教育の四側面〈①人権としての教育②人権についての教育③人権が大切にされた教育④人権をめざす教育〉」を指導の検証軸とし、その中で、「もとめる・伝えあう・つながる」力を伸ばしていく実践を積み重ねてきました。

学習の主なフィールドは、萱野のまち、校区のまちです。地域では、ワークショップなど様々な形で自分たちの考えを伝え合い、課題を解決する過程を楽しみつつ、

### ●2年生／『うえよう！そだてよう！ひろげよう！』

「ぐりーんぐりん」の方たちとの出会いから、花や野菜を育て始めた2年生。その経験から「おいしいな〈クッキーやケーキづくりなど〉」「たのしいな〈劇や漫才、落語など〉」「すてきだな〈しおりや“おふくろの味”のお弁当カバーブル等など〉」とそれぞれの自分らしさを生かした活動を行いました。2学期には世代間交流会で、3学期にはさらに多くの地域の高齢者の方とふれあいました。



♪“いこいの家”では  
りきって発表です。

### ●3年生／『つたえよう わがまち かやの』

「むかしの聞き取り」から、「現在」を調べ、「未来」を考えた3年生。たくさんの地域の人や場所、文化との出会いがありました。

住みよくしようとする人々の願いを知ることができました。グループで話し合ったり、ワークシートで考えを整理したり、調べ方のスキルを習ったりと、少しづつ力をつけてきました。



♪鍋田川へ出発。萱  
小卒業生のお姉さん  
といっしょです。

地 域 ・ 保 護

### ●アイデアがひろがるプランづくり ワークショップ

保護者や地域の方とともに、子どもたちの成長への願い、子どもたちや自身の興味・関心、地域に在る人や場所等を出し合い、仮プランをたてる活動を行っています。ともに考える時間を通し、子どもたちの成長への関心が高まることはもちろん、教職員にとっても、自分たちが気付かなかった子どもたちの生活等を知る貴重な機会となっています。子どもたちの実態や意見と重ねながら活動が展開してきます。



### ●へいわ21（らいとびあで開催）

おとな子どもが協働でつくる学校行事

らいとびあ21での「へいわ21実行委員会」のようすです。PTAや地域福祉会など、地域のたくさんのおとな実行委員と5、6年生実行委員が8月6日の活動予定を相談しました。劇や、地域コラス、すいとんづくり、読み語り、パネル展、聞き取りなど、平和への思いを込めたコーナーが生まれます。保、幼、小の子どもたちとともに、地域のみなさんもらいとびあへ来てくださいね。

# 人権の宝島・萱野小発

人権教育推進会議は、萱野小の公開研を訪問しました。

## 2002年萱野小学校公開研究会に 参加して 左英順

左英順

一年生の「おはなしワールド」を直译して「おはなし」という意味でなれてると思いました。本に魅入つている姿が見られ、これだけ大勢の見学者に囲まれながらも、こわらを振り向く子もなく、見られるところにこじら意味でなれてると思いました。本の好きな子ばかりじゃないでしょ、本当に適応していける子はないのかな、読む本があらかじめ決まつてたのかななどといふかしい気がするほどでした。地域の人の入り込みも違和感なく、これからは学校も地域の人間に開かれ、支えられる時代になつてくのでしようね。

基礎学力保障分科会「ワックトークを楽しもう」に参加しました。通常の授業時間を確保した上で、ブックトークにどれだけの時間をさいているんだろうと氣になりました。次に生かす場やつながる場はあるのが、一年間だけの取り組みなのかなど、全体の位置づけについても疑問に思いました。本好きな子にはとても楽しい時間かもしれないけれど、本をあまり好みない子の反応はどうなんだろうと氣になりました。

子どもたちの趣味にあわせた本を用意する、先生自身がまず楽しんで取り組むところが印象に残りました。

### 萱野小学校へのQ&A

**A Q**  
(北委員)：保護者の参画については、先生と保護者の境目がなく、先生がやりにくいのではないか。  
(入江さん／萱小)：プログラムづくりから地域の人や保護者に参加してもらっている。メリットのほうが大きい。

## 萱野小学校公開研究会訪問記 埋橋淑子

埋橋淑子

久しぶりの校舎、この雰囲気、なつかしく。子どもたちが育ててもらい、卒立つてから8年。でも、ちょっと違う、変わつていて、何だかつづ前にもフリースペースを活用した学級の柱に繋がれ

久しづりの校舎、この雰囲気、なつかしく。子どもたちが育ててもらい、卒立つてから8年。でも、ちょっと違う、変わつていて、何だかつづ前にもフリースペースを活用した学級の柱に繋がれています。それは、福井の学力の気になる

一回の参観授業だけではなくとも言えませんが、指導計画書を読んでその周到な緻密さに感心しました。とくに感じた点は、学力の気になる子をしっかりと追跡しつつ個別対応している点（人権としての、人権を通じての教育）②この実践の前段階として、詩の群読、一分間スピーチ、日記など多彩で、かつ有効な基礎学習を積み重ねて、いろいろな実りをもたらしていく……。ちょっとした興奮を味わつて帰ってきた。

（服部委員）：普通にいわれている学力觀との違いを感じるが、中学校で身についた学力は生かされているのか。

**A Q**  
(山田委員)：中学校ではやはりペーパーテストではかかる学力が中心。知識を積み上げる学びの方が、子どもにも保護者にもわかりやすい。

**意見&まとめ**

（河野委員）：風通しがよいのが、一番。しかし、おとながこんなに子どもの方を向いていいのか。おとなの中常と子どもの中常は違つていて、違うものが出来ちゃうからいいのに、それが一つだとせつないんぢやうか。

（鍋島委員）：これから議論していくべきポイントとして、(1)学校教育と家庭教育の違い (2)受験学力と人権教育の関係 (3)子どもたちの“生”生きていく空間の独立性 (4)社会教育のありかた、などが明確になつたのではないか。

## 国語教育と人権教育 服部ひとみ

服部ひとみ

（北委員）：保護者の参画については、先生と保護者の境目がなく、先生がやりにくいのではないか。  
(入江さん／萱小)：プログラムづくりから地域の人や保護者に参加してもらっている。メリットのほうが大きい。

**A Q**  
(永田委員)：学校の中で楽しいことが一つでも多くあるといいなと思う。

太郎「おいおい、次郎、ここに書いてあるタイト

ルの意味、知っているか。」

次郎「どれどれ、おう、よくぞ聞いてくれた。ま  
かじとして、えーと、校内 LAN がやつてくる。

校内といつたら、学校の中のことだろ。学校的

中に、LAN がやつてくるんだよ。」

太郎「それは、ぼくもわかるよ。LAN がわからな  
いんだよ。」

太郎「うーん、むずかしいな。花子先生に聞きた  
いこうか。」

次郎「がつてんだ。」

太郎「先生、校内 LAN がやつてくるって、どう  
いうことなんですか。」

花子先生「それはね、今、教室」「テレビ  
ビ用や電気用の配線があるように、

小学校、中学校の教室や特別教室で、コンピュ  
ータを活用した授業ができるよう、校内にコン  
ピュータ用の配線をするということよ。」

次郎「教室の授業でも使つたりするの  
か。それ、いつごろ、できるんですか。」

花子先生「8月に工事が終わる予定よ。  
これまで比較すると、約1500台

のスピードで利用できるようになるこ  
うことですよ。」

太郎「スピードが速いということは、早  
く調べられるついでないことですね。」

本市では、子どもたちが情報化社会に  
対応していく力をつけるため、IT（情  
報技術）を活用した教育環境を整備し  
ています。その目標は次のとおりです。

コンピュータに慣れ親しみ積極的に活用できる  
能力や必要な情報を取捨選択し活用できる能力  
を育てる。

プライバシーの保護や違法有害情報への対応など、インターネットをはじめとした情報ネット

ワークを利用するための情報モラルを身につけ  
させる。

各教室でインターネットや「学習用コンテンツ」  
などの「新しい学習の道具」としてのコンピュ  
ータを使うことによって、「よりわかる授業」

を展開する。

次郎「おいおい、ことばはどうするの？ メールだ  
と時差は関係ないけど……」

太郎「そこはそれ、いろいろな方法があるんだな。  
それと、来週教室でデジタル「コンテンツ」使  
った授業をするつて花子先生が言ってたよ。」

次郎「おお、ことばはどうするの？ メールだ  
と時差は関係ないけど……」

太郎「そこはそれ、いろいろな方法があるんだな。  
それと、来週教室でデジタル「コンテンツ」使  
った授業をするつて花子先生が言ってたよ。」

# 校内 LAN がやつくる

このように情報社会を生きていく子どもたちは、読み・書き・算

と同じように、コンピュータを操作し活用できることが必  
要な学力となつてきています。

子どもたちは、自分の興味

を中心に基づいてインターネットや学習用コンテン

ツを活用して学習できるようになり、メールやテ  
レビ会議等を通して、これまで以上に、さまざま

な人や文化と出会う貴重な場が創れる教育環境になつてきます。

本市のすばらしい情報通信ネットワーク環境を

学校教育でも、よりいっそう、生かしていきたい  
と思います。太郎、次郎、また、箕面の子どもた  
ちの授業での満足した笑顔を求めて……。

※デジタルコンテンツ・パソコンや放送などで提供さ  
れる動画・静止画・文字情報の内容



日本人学校とメールで話し合いをしてるよ。本  
当は日本人学校じゃない方がいいんだけど、こ  
とはの問題があるって花子先生が言つてた。」

太郎「インターネットだと、世界中のひとつなが  
れるんだよね。いろんな人とメールで話し合い  
するのも楽しめたよね。」

次郎「おお、ことばはどうするの？ メールだ  
と時差は関係ないけど……」

太郎「そこはそれ、いろいろな方法があるんだな。  
それと、来週教室でデジタル「コンテンツ」使  
った授業をするつて花子先生が言ってたよ。」

次郎「おお、ことばはどうするの？ メールだ  
と時差は関係ないけど……」



# 人権教育ばちばちやろか

昨年11月13日に開催した人権教育推進会議発足記念シンポジウムでは、創刊号で紹介した鍋島祥郎さんの基調講演にひきつづき、人権教育基本方針策定委員から意見発表・参加者との意見交換が行われました。今回は、後半の意見発表・意見交換の内容を紹介します。

意見発表Ⅰ……服部ひとみさん

## 一人ひとりが人権の当事者であるという自覚を



基本方針策定後の人権教育の研究が箕面市同和教育研究会（注1）のままスタートしたということをお聞きし、ちょっととがつかりいたしました。従来の延長線上に人権教育を位置づけるのではなく、新たにすべてを統括する組織として人権教育研究会をまず発足し、その部会として従来の三つの人権教育を位置づけ、さらに新たな視点から人権にアプローチする新部会を設けていただきたかったなと思うわけです。少数の限られた人権問題だけに拘泥せずに、もっと広く人権教育を人間教育ととらえることでより人権が身近なものになって、一人ひとりが人権の当事者であるという自覚が生まれるのではないか、そうすることで結果として、個々の人権諸問題への理解が深まるのではないかと考えます。

## もっと学校の人権教育に関する情報提供を

保護者は、学校を通じて情報を得ることができるのですが、そうでないと、学校の人権教育に関する情報提供はありません。身近な親しみやすいかたちで、学校の人権教育を知ることができるような情報がほしいなと思っています。市民に広く目にふれるような配布の仕方をしていただきたいと思います。また、人権教育基本方針では、市民参画をうたつておりますが、当の市民が人権教育基本方針の成立について知らないというのでは話にな

## 学校教育への関心

市民の学校教育への関心というのは、今ひとつ低いように感じられます。地域社会といつても、実際にはそう呼べるようなつながりや結束が市民の間にあるとは思えません。新興住宅地域では自治会さえあってないようなのが現状です。社会教育の方で、地域社会が学校を支え盛り立てていこうという意識を高め、意識改革をめざすような教育プログラムを開発していただけないものだろうかと思います。例えば「学校教育を支える地域社会づくり」といったテーマで継続的・発展的な講座を企画すれば市民の学校への関心も高まり、学校教育への市民参画の基盤づくりにもなるのではないかと思います。また、学校の人権教育への理解と関心を深めるために、「市民講座などで、「総合的な学習の時間を探検する」というタイトルで授業見学もおりまして企画するなど、学校教育と社会教育をジョイントさせるような企画、工夫によって双方の関心も今後深まつてくるのではないかと思います。

意見発表Ⅱ……山田佳彦さん

## 研究会と基本方針

箕面市同和教育研究会は1968年に発足、1969年には同和教育基本方針ができ、そのあと障害児教育の基本方針、在日外国人教育の指針もできました。箕面市の場合、障害児教育基本方針があつたからこれだけ地元の学校とともに学びともに育つとい



同和教育では、社会的な立場の自覚とか、仲間への共感とか、進路を切り拓いていく力をつけていくとか、反差別の立場に立ち切った集団づくりとか、いろんなことがされてきました。一番大きな影響というと、教職員の意識をえていったことだと思うのです。部落の人たちとの出会い、生活や文化や生き様に学ぶ、「差別の現実に学ぶ」、一人ひとりの子どもの学校で見せる姿だけではなく、その子の背景にあるものすべてから考えていく、一人ひとりを大切にする教育を本当にやり切るということを、先輩からいっしょに家庭訪問にいくいうよながたちで、学んでいったように思うんです。

**同和教育の成果と課題**

同和教育では、社会的な立場の自覚とか、仲間への共感とか、進路を切り拓いていく力をつけていくとか、反差別の立場に立ち切った集団づくりとか、いろんなことがされてきました。一番大きな影響といふと、教職員の意識をえていったことだと思うのです。部落の人たちとの出会い、生活や文化や生き様に学ぶ、「差別の現実に学ぶ」、一人ひとりの子どもの学校で見せる姿だけではなく、その子の背景にあるものすべてから考えていく、一人ひとりを大切にする教育を本当にやり切るということを、先輩からいっしょに家庭訪問にいくよながたちで、学んでいったように思うんです。

問題点は、結局、意識をもつて頑張る一部の人だけがやつて、やれな

い人はどんどんひいていくよな、

そんな感じがあつたんじやないかな

あと思います。また、本来本音で人

と人が向かい合うことをめざすのに、教師の側も本音で子どもに迫つていこうというのはなくて……。本当の意味で広がりと深まりもなかつたんじやないかなあと。同和教育や人権教育が、特別な人のための特別な人がやる教育という意識があるんですね。同和教育をやることは同和地区の子どもたちのためだけに働かさ

うことが保障されているということも確かだと思うんです。府内でも同和教育の研究会が人権教育の研究会に変わっていますが、基本方針を立てて変わったたというところはあまりないので。箕面市は同和教育・人権教育の研究会、教科の研究会もいつしょにして、その中で教科の研究課題、人権課題を研究するというよなイメージはできていたんです。何年かすれば、服部さんが言われたようにすつきりいけるんじゃないかなあと思つています。

れているんじやないか、こんな重い障害のある子に何教えたらいいねんというよな意識の中で、うわべだけでいく人もいたよう思えます。

### 人権教育基本方針への期待

基本方針に「箕面の子どもたちと市民が世界の人々と手をたずさえて人権文化の花を咲かせる」というのがあります。このフレーズ気に入っています。学校の中だけじゃなく、子どもたちと取り巻くおとなたちがいつしょに人権という価値へ意識を向けていくといいなあと思つています。人権を保障するという中には、学力も範疇の中に入つてくるんですね。例えば、人権の原則に基づく社会参加のための知識・態度・スキルとして、子どもたちが政治・経済・文化のあらゆる面で社会に主体的に参加できる力を保障することが学力・進路保障であり、それを保障することが人権教育だと書かれています。まさにそれは教育そのものです。だから、これは教育が何をすべきなのかということを伝えているものだといふうに思つています。

学校の人権教育に関してこの推進会議も支援しますと書いています。市民の方も入つている人権教育推進会議の支援に大きく期待をしたいなといふうに思つています。

### フロアの参加者を交えての意見交換

基本方針策定に関わった方から次のような補足する意見が述べられました。

#### ●新たな同和教育の時代の指針

人権教育基本方針ができてから組合のチャンネルであちこちにアピールしてきました。一番強調してきたのが、2001年度末をもつて同和対策が法切れを迎えることです。同和地区が行政的・法的になくなつても、いろんな人権問題が課題として学校現場にも社会の中にあるわけです。同和行政は差別のある限り続

けていくと言っているわけだし、何ら取り組みは変わらないのですが、法的な部分が終わるということが非常に大きなことのようと思ってしまうわけです。ですから、この人権教育基本方針は2002年度以降の新たな同和教育の時代の指針であり、普遍的なもので、今までの同和教育や部落問題学習や在日外国人教育や障害児教育の成果をもって、新たな時代にこの真の理念をもつて歩いていこうと言つてきました。（上田さん）

### ●人権教育推進会議は学校の応援団

学校現場の外に人権教育推進会議がつくられ、この性格についても議論が行われてきました。人権教育というのはまだまだ学校が中心になるから、まず学校現場に対して、「市民の応援団」として、何かできることがあれば応援するというスタンスでやれることからやつたらしいのではないかと理解しています。「やりますよ、やることないですか」といつている推進会議のメンバーは、攻めの発想というのもしやすいし、こんなこともあんなことでもきるんじゃないだろうかといふことも言いやすいと思うのですが、実際に学校現場ではどういうことが求められているのかといふ率直な声を聞きたいなあと思います。（埋橋さん）

### ●人権教育を大きな枠組みで

今、文部科学省の就学に関して省令の改正という課題で問題提起をしております。障害のある子どもたちを受け入れ、学んできただ、その実践をやつてきた人たちの中から、じつは改正点を含めて、あまり異議申し立ての声はあがつていません。例えば身の回りのことができない子どもが普通学校に行つたら違法である、犯罪であるといわれているのに、それに対しても反応が少ない、これでは今までやつてきた障害児教育というものを痛苦の思いでもつて反省せざるをえないだろう。そういうことをふまえた上で、人権教育というものを大きな枠組みでもう一度やつていきたい。やらなあかんことをみんなでいつしょに探していこう、それが人権教育なのではないかなと思っています。（河野さん）

### ●在日外国人教育の推進のために

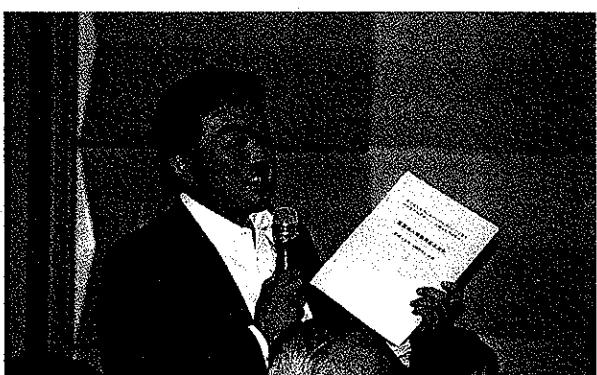
在日外国人教育だけはなかなかすすまない、障害児教育・同和教育の二本柱でもつて箕面市内で存在するいろんな差別に立ち向かっていかたいなと思っております。在日外国人教育研究協議会の定例会で、トッキの会（注2）の方々からさまざまな課題を突きつけられました。在日外国人教育は幅広く、現実としてはニューヨーカーの方に走つてしまっているところがあります。基本方針の中にしっかりと在日外国人教育の立場に立つて差別と闘つていきたいと明言されておりますので、これを土台にして推進していきたいと思つております。（中務さん）

続いて、参加者から人権教育基本方針に対する期待や人権教育推進の取り組みについて意見が次々に述べられました。

### ●抽象的がいいんだ

人権というのは空気のようなものだと常々思っています。ふだんなかなか気がつきにくい、だけどなくてはならないもの。仮に空気がなくなつたとしたら、酸欠状態になつて、「人権って大切だなあ」と痛いほどよく分かることです。今まで「酸欠状態」に陥つた人から人権の大切さを学んできましたが、今は空気の大切さを知つていくという人権教育ではないかと思っています。さまざまな方法も手法もあり、いろいろな角度から人権について学べると思います。

この基本方針はそのやり方で人権教育をすすめようとしている点で、素晴らしいものがあると心から思つています。だけどかなりの広がりが提案されている点で、一抹の迷いを覚える教育関係者もいると思われます。「こうしてくれ」といわれたら努力目標とその道筋を見つけやすいのですが、抽象的で……、でもこの抽象的がいいのです。これに託して人権教育をすすめていきたいと思つています。（主原さん）



## ●プラス思考で、得意の分野で山に登れ

止々呂美小学校は子ども25人で小規模校、いろんな課題を抱えていますが、プラスをのばして子どもを元気にしていこうとしている。

同和教育の精神を受け継いで人権教育として発展していく中で、以前は根っここの部落問題が分からないと何が分かるんだといふ話があつたけど、今「得意なジャンル・得意な分野で山に登れ」と。また、今までの「教える側・教わる側」から双方向の関係をつくりあげるべきです。フォトランゲージなど子どもの力を引き出す方法・手法をやっていく。そのためには教職員の意識改革、新しいものを取り込むことが大事だという認識を共有したい。新しいことを覚えたり頭を切り換えるのは大変だけども、それをやつしていくおもしろさもあるし必要です。また自分の生き方とからめて一生懸命やついたら元気づくと思います。理屈じゃなくて動き出したらいいのではないかと。同和教育のスローガンである「差別の現実に学ぶ」など今でも生きています。人との交流を広げていくのが人権教育のすばらしさだと思いますので、ともに頑張っていきたいと思います。（中田さん）

## ●地域や保護者とともに人権教育プログラムづくり

萱野小学校では、各学年で、総合学習を中心とした1年間の流れを創る「プランづくりワークショップ」を地域や保護者とともに行う取り組みをすすめています。子どもたちの成長への願いや、地域にある「人・場所・文化」の授業への生かし方など、参加者のみんなでさまざまな意見を出し合うことができます。授業の展開にも、地域や保護者に参加していただけています。（大浜さん）

人権教育プログラムづくりに市民、保護者が参加できるようになりますこと、それも市民参加の一つの目標ではないかなと思います。開かれた学校園づくりがじつは地域の市民社会の自治という非常に大事な人権にかかわっています。開かれた学校園づくりが地域の市民社会の自治を活性化している事例をご紹介いただきたいのですが。（コーディネータ・鍋島さん）

## ●地域と継続的な取り組みを

箕面小学校で、地域の人権協、学校PTA、守る会が共催で毎年人権講演会をしています。平成13年は基本方針ができたのを受けで鍋島先生を講師にお招きし「これからの人権教育」ということで啓発とお披露目の講演会を実施しました。その後、鍋島先生をコーディネータに、「これからのおやじのあり方」というテーマで、箕郷の会（おやじの会）を受け皿として夜に教育懇談会を行いました。40人ほどの出席者のうち、男性が25人いたと思います。地域といつしょに一つの課題を求めるながら展開していくかなければどうしようもない。学校だけでは限界があり、いろんな方の意見をちょうだいする中で、継続的にやらなければならぬ。地道な動きをしながら、基本方針の精神を少しずつ浸透させていく展望を持つております。（神田さん）

## ●地域に開かれた学校づくり

北小学校は、250人の小規模校で、友だち関係も良く全体に仲がいいし、地域がとても温かいです。「地域が自慢の北小学校」というキヤッチフレーズをつくっています。

「地域に開かれた学校」として、「北小だより」を自治会で回覧してもらい学校の活動のようすを知らせるなど、情報提供しています。また、学校生活を丸ごと見ていただこうと一日参観も行いました。ふだんの子どものようすをまず知つてもらひ話し合うことが、人権教育の基本ではないかと思っています。学校と家庭と地域と双方向で連携し、より「開かれた学校」をめざしていきます。（松岡さん）

箕面ではずいぶん豊かな奥深い人権教育の実践をすでに積み上げてきているのではないかなど思います。これから実際に学校に訪問し皆さんから提供していただいた情報を情報誌で市民に提供し、リ

アクションを把握して学校の現場に還元していく活動をしつかりと続け、現場の皆さんと推進会議がタッグを組んで持続可能な人権教育の発展を可能にしていきたいと思っています。どうぞご協力よろしくお願いいたします。（コーディネータ・鍋島さん）

(注1)箕面市同和教育研究会は、平成14年4月の総会で会則

改正を行い、箕面市人権教育研究会として活動をしています。

(注2)トッキの会は、箕面在日韓国朝鮮人保護者会。詳しくは「ゆうからきて」のページをご覧ください。

# おこしよし

かわのりだただ

夏のつよい光が、校庭のあみあみにまくらしきし、  
田舎がモクモク。ふかふかのひのかわだせ、やま  
たちが、「おこしよしやー、おこしよしやー。」

と、さわらじよし。

校舎のかげの、風がすましよし踏跡に、トントトやど、  
コロコロやん、キンちゃん、ムバちゃんの、なかよし  
四人組が、せつべにラッ、ラッとあせをためて、電  
線にとまりじぶるズメたちのよのい、すわりこん  
でこもる。

四人ば、五年生で、おなじくクラスです。わらわぐ  
給食の時間なのですが……。

「せぬくつたなあ。今日の給食はカレーや。あ  
つこのに、またあせがでぬ。なんぞソーメンとか  
せえくんのやろか。」

「クイックホット」のおせを、おじれた手でぬぐ  
じめつた。

「ホンは、カレーかわやかじなあ。せやかじ、カ

レーにつけしの赤じらくしんづけ  
は、じやや。あれなんとかしてほし  
いわ。キムチやつたらエエのにな  
あ。」

と、キンちゃんがラシラシ。

そのラシラシにじぶん、ムバち  
ゃんが、

「ボク、ミンシルダメ。アノ「ホイダメ。学校」  
カレー、ボクノ生レタムロロノア、チガウ。」  
と、顔をしかめました。ムバちゃんは、ね父さん  
が日本でしりとをあることになったので、こいつよ  
に、とおじ国から日本にやつてきて、三年生のとき  
にケンちゃんたわの学校に入學したのです。だから、  
言葉がスラスラとなりません。

キンちゃんが、

「ムバちゃんは、日本にきたてのシンマイやから、  
アカンのや。ホンは、みんしまのにねこ、平氣や  
で。それより、ふくしづけや。」

と、うわど、じゆじゆかわやんが、

「ホンは、キムチがアカンね。あの二二二クの  
におじがわぬる、ゲエッやト。」

と、われを闇じたキンちゃんは、

「せぬじや。キムチのにおじ、むこしやうなエエ  
におじやんか。」

と、わいしよしとした顔をします。なんだか、流  
れいへるすかしよし風が、フルブルふるえむつじよ。

そのふたりのぬこだく、わりじょよに、

「じやな」ぬこりであるよな。わたしのお母さん  
は、東京のほうで生れたんだって。それで毎年、し  
んせきのひとが、クサヤのひとのつてこりのをおく  
つておいてくれるの。それ、やこして食べるんだかじ  
やんが、



ものずばく、くんなにお  
じかれるんや。でも、お  
母さんは、ねらしいから  
つて、それで「パンをい  
っぱい食べるんだから  
あ。」

ちやんわ、  
「ボク、スルメノヤイタ」「オイ、ダメ。ナ」「カク  
ン。クサイ。」



んは、  
「スルメをやくにねらつて、ねじつねりやんか。  
オレ、すきやけどなあ。それより、いのとえ、ムバ  
ちゃんが食べさせてくれた、ほした肉。やくときの  
においは、ムシチャたまらん！」

と、ムバちゃんの隣りで、ホト「木をぐるりとむけ  
ました。今度は、ムバちゃんが、ムシヒキの番です。  
「ホシ肉、アレ、オイシイ。イイー」「オイ。ケンチ  
ヤン、ヘン。」

と、大きな田た、むつと大きくして、ケンちゃん  
をはじめました。キンちゃんも、よじ田でケンちゃ  
んの顔をのぞきこみます。三人のあいだで、すすし

い風がフルフル。

「ムバちゃんが、おいしそうな顔をしつ  
てあるでしょ。自分がねじしそうと思えればじじ  
やん。ねじしそうのは、ねじしこんだから。自分が  
キライだからって、ケチをつけたのりで、そのほう  
がへんだよ。みんなねじしこのがすきなんだから。  
でね……。」

と、じぶかわたとも、キン、「ハ、カン、コーン」と、チャイムがフルフル風の上をすべりこみました。  
「アッ、給食タア。」

と、ムバちゃん。四人はおおわいで、ピヨンピ  
ヨンとたちあがると、パタパタ、パタパタと、教室  
のほうにかけだします。ケンちゃんが、キンちゃん  
にかた田をつむりこみました。

「カレーのふくしづけ、オレが食べるからな。」

と、キンちゃんは、いやつむわりつて、

「ピースー。」

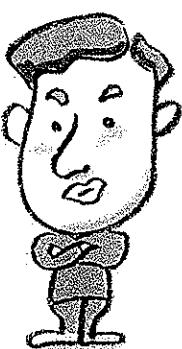
と、ゆびを一本、つまだしました。

四人がいなくなつた階段で、大きな給食バケツを  
もつた、どうばんのじゅわたちが、あせをタタタタ  
いきをフウフウ……。

みんなで  
はなし  
ヒント

- あなたの学校は、どんなにおいがしますか。
- あなたは、外國の食べ物を食べたことがありますか。
- いやなにおいがする食べ物を知っていますか。
- あなたのすきなにおいは、なんですか。
- それすきなものがちがうのは、なぜですか。

- おいしいものがすきといふことが、いつしょなのは、なぜですか。
- ムバちゃんと、キンちゃんの国は、どこで、しょうか。
- クラスで、先生といつしょに、かんがえましょう。



# やさしくきて!

日韓合同開催のワールドカップで、盛り上がっている6月の1日、トッキの会のメンバーに集まつていただき、学校教育に対する日頃の思いや考えをお聞きしました。

高さん：トッキの会は、活動としてキャンプや親睦会、留学生との交流会、料理講習会などを行ってます。

市内の小中学校に講師として行っております。眞面目では在日に対するケアが少なめと感じます。国際交流もじつは、私たちが住んでる範囲で、民族の文化・スポーツを身近に感じないことがじつは多いんじゃないと思つてます。

左さん：奈良の私立中学校では、在日の子が

一人だけじゃ、週一回のハングル講座をするなど、在日に対して熱心に取り組みがされています。もちろん日本人もじつしょに参加してます。

高さん：私は、それぞれの学校で民族の文化を教えてきつこく感じます。在日以外の子にも教えてきつこく感じます。

金(吉)さん：眞面目では組食に「ピラフバ」、「ギム」、「チック・スープ」など韓国の食事が採り入れられてることもよく思つてます。

授業で、チヂミ先生

じつは、先生

特別扱いは望んでいたけれど、少し気にし

たこと思つてます。

上田さん：親子とも特別扱いは望んでいませんが、在日とわかったら必ず北朝鮮に取扱止めにせつて思つてます。日本人社会の中で前回に生きていかれるようにと、担任にはつむね願つてます。私たちはたまたま在日ですが、大人の社会が違ひを認め合えないじつが、人権問題の根っこだと思います。いじめなど、何か問題がおきたら、先生が人権をどうやって守るかで対応が違います。子どもを守る立場にある先生は「心にしめて」とおこなはして思つてます。

左さん：なにも聞かないのが平等だと思つている人もいますし、びっくりするくらいなどもいます。先生もあります。私は、チヂミの娘、国籍は韓国なのに、先生に北が南かと聞かれ絶句したことあります。先生は歴史的な背景など何一つ学ばなくて在日の子どもを教えているのでしょうか。在日韓国人のこととも知らないさすがです。親も日本で生まれて育ち、韓国語を知らない人もたくさんいるのに、じを知らない先生もいます。

金(明)さん：自分のクラスに在日やアジアの子がいたら、先生は歴史や背景などをちゃんと勉強してほしと感じます。外国人も部落の人も、今の子が親になったとき、差別のない社会を望んでいます。今30代ぐらうの人が、差別的な発言をしてくるのを聞くときがあり

自然な語がじわじわした。声をかかしかわったらいつでも喜んでボランティアで出かかいでいる。上田さん：機会をつくってくれる先生もありますが、継続してやつてこなれ学校は少なくように感じます。単発の取り組みはこのままですが、学校として継続的な取り組みをしてほしいと感じます。人と違うところを積極的に受け止められない日本社会の中でも、子どもが在日の子として同じ感覚がないかなど不安です。学校で、下校時の演奏を聞いても自分の機会があつまつたが、保護者には子どもたちの反応を感覚して教えてもらつてしません。イヤホンはして車のドアがなく、子供たちの行動を取つてもらつて

わからぬのは残念です。金(吉)さん：回をあつたときに、友達つてほしごふつ思つたが、あるじいじを伝えて、「あつてほしごふつ思つて受け流し、懇談などじだわいてるみたい先生もいます。

ます。その人たかの親の世代は、差別意識が強くあり、その親がしゃべりでいる「子ども」を聞いて育つてしるからだと感じます。

**上田さん**：大人になつてから、知識として学ぶ人権はなかなか根づきません。小さい時からわざと教育つけてること感じます。

**文さん**：私の子供もは、ずっと本名なので、韓国かと聞かれるとが多くしないと感じを感じました。今、大学生になつてやつと在田だと聞えるようになります。

**左さん**：私は本名だから気が楽です。選挙権がなこと、びっくりする人が多いし、鬱わなくてねやと聞いてくれる人もいます。

**金(明)さん**：通称と本名で差別のかたちが違う。通名だと在田だとわかったとしたときにつけないがなくなる人もいます。

**左さん**：親はいいが子どもは大変です。親の方針で「子どもの頃から本名ですが、とてもわかつた、今の比ではありません。自分の子じもは本名でちゃんとしつかり育つてこます。

**文さん**：本名だと学校や子どもに頼つてきます。学校中の先生が名前を知つていて、廊下で声をかけておたり、大変重荷です。在日に関する取り組みがあれば、すぐに主役にされてしまい、先生からの差別、特別扱いをされてしまうます。本名にしたことで、小中学校の一一番ひどいことにしようと田をさせ

たなつて思つます。

**高さん**：親の頃でも「オーフォロー」に入れると、子供にも何かあつたらいつでも話題にして言つています。この親でじうじう思つてあります。よくわかつてくれる

先生とも出会ふ、「子どもはオーフォロード」といふどんぐんとつながつてごます。

人の出会いが大切だなあと感じます。在日か日本人か

ではなく、その子の気持ちをどう育てるかだ

と思つます。「今はハーフじゃなくて、ダブルや」って子どもに語つたら、「2倍やからお得やな」って。子どもは得したって思つて

いる、そんな気持ちで生きほし」と思つて

います。総合学園で学校に行くと、子どもが疑問に思つてくることがあります。「こんな」と聞いたのが、「こんな」と質問されながらじつはよくに思つ場面もあります。分からないうちは子どもが聞くべきだと思います。

**左さん**：その前に、信頼関係をつくることが大事だと感じます。

**高さん**：分からぬじいことを知るの分からぬと思うのです。

**金(明)さん**：ついついしゃべるからだけてじるんですね。問題から逃げてじる言つ方や対応をされるといつもします。

**上田さん**：セッパラムところ劇団をやつて

ます。高校で公演をしたときには、プロローグに「金さんの仕事や」とつづせりふに象徴される問題提起の部分をカツメして演じてくれました。このように問題にふたをするのが大きな問題だと思います。

**金(明)さん**：子供は、在田と分かつてもそれまでと同じ関係でつきあえる友だちをたくさんもつてあります。じい友だちです。

**上田さん**：そういう人間関係をつくりてほしいと親は願つてあります。先生には、よく観てフォローしてほし」と感じます。

### ●話し手

高桂子さん 金吉子さん 左英順さん  
上田あきえさん 金明子さん 文夏子さん

各学校の  
ホームページを  
一部紹介します。

### \*友達は大切\*

私は、豊川南小学校の六年生です。友達の大切さを、みなさんにつたえたいと思っています。  
豊川南小学校のみなさんと友達のことを聞いてみました。

豊川南小学校にはさち子（仮名）というドッジボールが好きで一人ぼっちの女の子がいます。

さち子はだれかと話そうとしてもすぐにきん張してしまって、すらすら言葉がでないのです。休み時間など、クラスの友達が教室で集まつてにぎやかに話しているのを見ると、いっしょに話をしたいと思うことがよくあります。そんな子でしたから、さち子はドッジボールが好きでも、外に出て友達といっしょにすることができません。しかたがないので、教室で席について、本を読んで過ごしていました。さち子の周りの子ども達は、さち子がいつも一人で本を読んでいることを知っていましたが、本当はドッジボールが好きだということは、誰一人として知らないのでした。

さち子の手紙（名前はすべて仮名です）

母は、私がみんなからさけられていることを先生に聞いてもらおうよ、と四・五回きましたが、私はすべて断りました。それなのに最後に聞かれた後、涙が出てきて、それは止まることなく次々と出てました。

一学期最後のプールの時、六年のみんなで「波」をすることになりました。

私のとなりは明男君でしたが順番がかわってしまい、そこにいたみち子さんと組もうと、近くに寄ってきました。ところが、みち子さんは、なかなか肩を組んでくれません。しまいには、

「この人のとなり、いやや。」

とまで言われてしましました。明男君も、みち子さんにむかって「きしょいもんな。」

と言いました。でも、私は何も言い返せませんでした。

修学旅行のフレイランドの時、ボールがたくさんある所へ行ってみると、進君とさとう君と一緒にいました。中にいるみんなと同じように、私がちょっと進君にボールを一個あてると、三人でそろって私の頭や背中にボールをあててきました。私は、すぐにそこから逃げ出しましたが、外に出ると涙が出てきました。

この事を書くまで、ずっとみんなには、平気のような顔をしていました。それに、家族にまでそんな顔を見せていました。ある時は、お風呂で泣いた事だってあります。家出の事さえも考えてしまいました。こうやって、私はすうっと泣いてばかりだったんです。

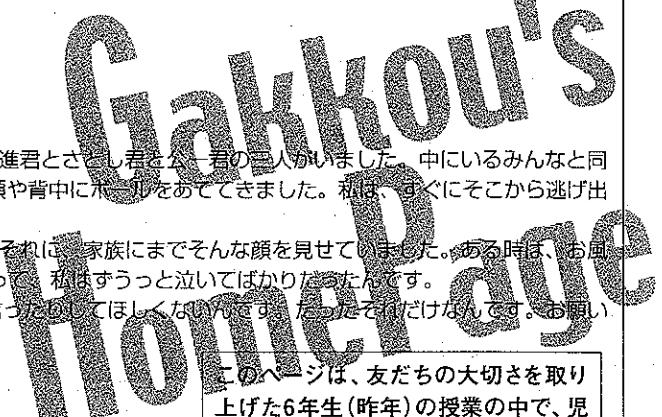
今、私がお願いしたいことは、もう私をさけたり、「きしょ！」などと言ったりしてほしくないのです。ただそれだけなんです。お願いします。

あなたは、この手紙をよんでどう思いましたか？

ひとりぼっちの子がどれほどつらいかわかっていただけましたか？

私はこの手紙を読んで友達は大切なのだなと思いました。

<http://www.city.minoh.osaka.jp/toyomina-ele/toyomina-ele/tomo.html>



このページは、友だちの大切さを取り上げた6年生（昨年）の授業の中で、児童が作った作文を載せたものです。



2年生が1年生を案内して学校探検をしました。  
1年生に学校の中を案内しました。  
すごくわかったと言ってくれたのでぼくはすごく安心しました。

<http://www.city.minoh.osaka.jp/seinan-ele/html/02gakotanken.html>



### 箕面小学校の柿の木

校庭の柿の木は、学校の姿をながめ、何万人かの児童の元気な声を聞き続けてきました。

本校の創立百二十周年とともに歩み続けた箕面小学校のシンボルである校庭の柿の木が、今、私たちに語りかけています。

「一万有余の卒業生や数多くの先生など、それから百二十年の校舎などをすべて私はすべて知りつくしているよ」と。

そして箕面小学校ではこの木から取れた柿をほし柿にして食べています。とてもおいしいですよ。

<http://www.city.minoh.osaka.jp/minoh-ele/html/child/kurabu/kakinoki.html>

### .....卒業記念制作はいま.....

本校は昭和43年（1968年）に創立しました。以来34回の卒業生を送り出してきました。

この間、卒業記念制作を作つて学校に残して巣立つて行かれた年もあつたでしょうし、備品や消耗品的な品物を残された年もあつたでしょう。

しかし長年の間に壊れたり、ひっそりと忘れられている物もあるかも知れません。今回一人の卒業生からのお尋ねがあったのを機会に、すぐ目に付く卒業制作だけをとりあえず写真でとりました。来年度から校舎の大規模改修も順次予定されており、この時期に確かめておくことも役に立つかもしれません。

見られて間違いとか、何か新しい情報があれば教えてください。

第1回卒業生 昭和44年（1969年）3月卒業（南庭）

（6月23日、第1回の卒業生の方からのメールで、ひょうたん池が卒業制作とわかりました。メール 有り難うございました。）



<http://www.city.minoh.osaka.jp/higashi-ele/html/sotugyoukinen.html>

☆箕面市立の各学校・幼稚園・保育所のページへは、次のアドレスからどうぞ☆  
<http://www.city.minoh.osaka.jp/SISETUANNAI/home.html>

# なべちゃんの おサルでもわかる『人権教育基本方針』

## 1. なんでもありの人権教育

第2章第1節4項「幼稚園、小・中学校は、地域の実情を踏まえて、教科等の学習、課外活動などの形態を有効に組み合わせて人権教育を推進します。」

題だつたでしよう。でも今は環境や福祉の問題が中心ですね。社会が人権を保障しなければならないと、いう魂は同じでも、内容は時代とともに変わっています。

もちろん、子どもたちの感性もかわっていきます。

昔と一番違うのはだまつて先生の話を聞くがなくなったことですね。子どもたちが先生におそれをなしていたころの人権教育（同和教育）と言えば、「差別してはいけません！」と先生が説教をするというかたちです。昔もこれはあんまりきめがなかつたですが、いまそんなことをすればたちまち子どもの心は離れていきます。だから先生たちにはあの手この手の工夫が求められています。

違うといえば、学校もまた千差万別です。都会の学校や田舎の学校、海のあるまち、山のあるまち、工場のまち、住宅のまち……。それぞれの校区の子どもたちの生活の様子はこうした校区の個性によってぜんぜん違います。その個性にあわない人権教育をやつても、ちつとも効果は上がらないし、おもしろくないでしよう。地域の実情から出発する、個性ある人権教育が必要です。他校の受け売り、教科書通りの人権教育では子どもたちの心に明かりをともすことはできません。住民のみなさん、先生たちに地域の個性をしつかりと教えてあげてください。

人権教育もたわしと同じで、戦後の食うや食わずの子どもたちと、テレビゲームに携帯とハイテク化したいまどきの子どもたちは、同じ内容や道具で教えるわけにはいかないです。たとえば「健康で文化的な生活」ということばで現される「社会権」の内容では、50年前ならまっさきに栄養や衛生の間



### 人権教育推進会議情報誌『はじける こころ』

発行 箕面市人権教育推進会議

箕面市教育委員会

教育企画課 TEL0727-24-6762 FAX0727-24-6010

e-mail:edukikaku@maple.city.minoh.osaka.jp

平成14年（2002年）7月

人権教育推進会議委員

鍋島祥郎、服部ひとみ、埋橋淑子、河野秀忠、丸岡康一、永田よう子、福島全子、松野ひろみ、左英順、屋代直巳、田中はるみ、柳井律子、林宏海、山田佳彦、寺元耕二、上田博、鶴丸春吉、仲野公、藤原秀子、上西利之、井上隆志、前田健、若生耕造、南橋正博、南悦司、津田善寿、黒田正記、前田功、辻広志、浅井晃夫、谷口あや子、太田克己、坂上潔司

げんげの：「げんげ(紫雪草)」とは、れんげ草のことです、「げんげの」は、れんげ草が一面に生い茂る野原のことです。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、春になると蓮の花に似た小花を一面に咲かせます。また、れんげ草は、綠肥として大地を肥やします。蓮に似た小さなれんげ草を、子ども一人ひとりの尊厳に見立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました。



げ

ん

げ

の

の

ペ

え

じ

写真募集！

子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔…などの写真をお送り下さい。

